Peppolが輝かせる「主役」たち ～アンサー税理士法人、デジタルインボイスの「自分ごと」化～

2025年12月1日、デジタル庁は、株式会社TKC（大阪SCGサービスセンター）のアレンジにより、アンサー税理士法人（大阪府豊中市）の代表社員 小園元一氏との間で、同法人におけるデジタルインボイスの実装について、意見交換を行いました。

まず、小園代表社員から「㈱TKCからのシステム利用料の請求をデジタルインボイスで受けている」とし、「事務所からの請求についても60社以上の関与先事業者の方にデジタルインボイスで実施している」との話がありました。

そのうえで、「（デジタル庁ウェブサイトに掲載されている）他の導入事例を見て、関与先事業者間でのデジタルインボイスが普及すれば、より業務が効率化するに違いない。もう一度関与先の請求フローを確認し、デジタルインボイスの導入提案できるところがあれば提案していきたい。」との前向きな発言がありました。

さらに、「関与先事業者の中には、PDFなどの画像データを読み取り、自動処理するサービスを活用している者も少なくない。そのような中、サービスプロバイダーとともに、デジタルインボイスの自動処理のサービスのメリットをどう訴求していけるかが重要なポイントではないか」との話がありました。

アンサー税理士法人 小園元一氏（上段左）と事務所の皆様（下段）